

令和元年度御宿町生涯活躍のまち推進事業評価委員会 会議録（令和元年11月7日実施）

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 委員長及び副委員長の選任
- 5 議題

平成30年度地方創生推進交付金に関する事業評価について

事業評価について説明

保健福祉課長 平成30年度事業説明

産業観光課長 平成30年度事業説明

教育課長 平成30年度事業説明

企画財政課長 平成30年度事業説明

委員長 ただいま、KPIについてと平成30年度に実施した事業について説明がありました。平成30年度事業を評価するにあたって、ご質問、ご意見をお願いしたいと思えます。たくさんの説明がありましたので、まず事業評価についてご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。

委員 CCRC事業とこのKPIが混同してしまって、わからなくなってしまっている。その違いについて整理していただけるとありがたい。CCRC事業の指針と事業評価については、オーバーラップしているのはわかるのですが、意見を言うのにどうしたらいいかわからないので、少し整理していただきたい。これとCCRCの違いです。

企財課長 CCRC事業を端的に言いますと、都市部の元気な高齢者を呼んできて、田舎で最後まで楽しく暮らしていければというような趣旨でございます。その実現にはサービス付高齢者住宅の誘致ですとか、医療介護施設の誘致などで、それは本丸としてはあるんですけど、側面を固めるというか、移住されてきても何もやることがない、退屈するようではしょうがないということなので、こちらにきてもまだ若いうちでしたら仕事、就業していただきたいということで、特産品などを開発して、そういうことを手伝っていただけないかということや、実際転入していただきたいターゲットとしては、若い世代、生産年齢人口の方に転入していただきたいことを望んでいるんですけど、なかなか仕事がないので、皆さん来ないということと、もう一つは先ほど教育課からお話があったとおり、教育の機会が田舎だと貧弱でございまして、側面を固めるところとして、教育の充実といった懸案事項を改善することを始めています。また、高齢者のサロンにつきましても、転入してきて引きこもりになってもいけませんので、そういう土壌を作りたいということと、福祉事業の交流サロンの狙いとしては、高齢者福祉などを自分たちでやっていただけるような担い手作りもしたいということで、また、御宿町はちょっとした困り事を解決してくれる便利屋さんのようなものがないので、そのような事業もどなたかやっていただけたらというような担い手作りをしたいということで、事業を実施しており、委員のおっしゃるとおりCCRC事業の本丸とは少し離れたような事業をしていますが、CCRC事業の周りを固めているというイメージで捉えていただけたらと思います。

委員 ありがとうございます。さらに質問をいたします。今この町の魅力ある部分を広めていきたい、創造していきたいということだと思わんですけれども、例えばオリーブを

やっているが、そのような目玉みたいなものがいくつかあって、オリーブの木を育てて事業までもっていくという、いわゆるオリーブバカみたいな人が出ないと、町が主導で実施するのはなかなかうまくいかないの、そういう人が必要だが、今の段階で育ちそうな雰囲気はあるんですか。

産観課長

委員のご発言のとおり、町としてもそういう方が出てきていただきたいとは思っていますが、頭一つ出たくらいの形でリーダーシップをとって、とにかく先頭を切ってやっていくんだという方は、残念ながらまだ出ておりません。ただ、グループごとに、例えば寄茶場事業でお集まりのご近所の方で、それぞれ庭で2、3本づつ植えてみようよという動きは少しずつ出てきたというところでは。

委員

御宿ではオリーブは育つんですか。

産観課長

植物の専門の方がおっしゃるには、水の管理が非常に難しいようですが、水を与えすぎだと枯れてしまうという関係から、少し難しいんですけど育たなくはないということでは。

委員

そういう人が出てくれると町の目玉になります。住民だったら、目玉になりそうなものがいくつかできそうだと思います。

委員

こちらの表にあります当初予算 26,930,000円、執行済額が約1,500万円弱です。この国庫補助事業に対して、執行残が出た場合、今年度に影響するもの、またはこの残金について、どういう形で処理をするのか、なにかルールはあるのですか。例えば、これを使わなかった場合、交付金ですから返金などがあるわけですが、その事務はどのような対応をするのか。

企財課長

御宿町のCCRC事業についての補助金は、継続事業ということではないのですが、3年間で大枠で6,500万円の交付決定をいただいている、初年度に使う分を26,930,000円として、国へ申請をしました。これは地域再生計画に盛り込まれた事業を計画どおりすべて漏れなくやった場合に、この全額がかかるということで、当然やり残しが出れば執行残が出ますが、これについては、事業の組み立てとしては仕方のないことだと思っています。この執行残につきましては、あらかじめいただいているお金ではなく、実際に事業をやって使ったお金について後ほど補助がくるため、返還という事務はありません。初年度に執行残が出て、それが翌年に影響するののかというと、また翌年は翌年の申請をしておりますので、まったく別物という考えになり、翌年の申請で予算内の実績であれば、執行残が出るというかたちです。これは、制度上やむを得ない制度であり、日本中では交付金事業を行っていますが、どうしても執行残が出てしまうということで、内閣府でも早めに調査があって、その残額分を追加申請した自治体に配分するからといったアナウンスもあります。実際に執行ができなくともいいんだということではないのですが、やむを得ないところと考えています。

委員

交付決定を受けている中で、課長がいったように執行できない場合は、他事業を行っているもっと有効な所に回すということですが、それも12月だとか1月だとかリミットの中で実施していくと思うんです。そのためにこの事業が目標値に対してほぼ満たされていない。今後の考え方として、生かしていかなければならないと思うんです。その辺を踏まえた中で、事業は結構たくさん実施しているので、このままでいいと思いますが、補助金で要望した内容と見比べながら、具体的に執行していったほうがいいのではないかと思います。

企財課長

町としましても、申請が認められているものですので、それについてはなるべく100%に近い執行をして、住民に還元ができるようにしてまいりたいと考えます。

- 副委員長 指標③の交流サロンの利用者数についてですが、寄茶場は私も数回参加して、町も三育学院大学も非常にいろいろ努力していて、この小さな地域としては177人という実績値は非常に多いと思うんですね。だけど目標値は600人だったが故に、5割未満という結果になるので、こういうものって難しいなと思いますが、年度の目標値の立て方は、どのようにお考えだったのでしょうか。
- 保福課長 当初600人だったというのは、年間を通して600人ということで設定していました。4月の段階では手探りということもあり、サロンの運営も初めての経験であったため、どこから手をつければいいのかという中で、10月からようやく三育学院大学、実谷区の皆さんと一緒にやっていただけるというようなことで、目標値に比べれば少ない数字ですけども、177人という方に参加していただきました。徐々に寄茶場や新しい拠点が出来てきていますので、H31年度では目標値に近づこう進めていきたいと考えています。
- 副委員長 浜の白鳥丸店舗では、地域おこし協力隊が非常がんばっていて、バヌアツの展示会も非常に好評でした。このように、特性を生かしたサロン活動が出来ているようなので、あと新町のほうも御宿台も活動を始めますよね。そうすると、これからの目標値というのも、いろんな特性を活かしながら実施しないと、がんばっているのに、実績値では目標値に達せず、ちょっとおしい気もしますので、そのあたりも参考にさせていただけると嬉しいです。
- 保福課長 地域再生計画のKPIでいくと、令和元年度は1,100人ということで、これも高い目標になっていますが、多世代交流以外にもいろいろな事業、例えば千葉大学がロコモの事業を実施していて、今年250人を目標にしていたんですが、参加者が概ね達成できました。地域再生計画の中には記載されていませんが、これを基にいろいろなところに人が集まるような波及効果もありますので、できるだけこの目標値に近づけるようにしたいと考えます。
- 委員 指標③についてお尋ねします。交流サロンの実施状況では、1人暮らしの高齢者の方を中心に支え合い事業を実施されているかと思いますが、これを年1回の実施で、引きこもり予防や支えあうということが、果たして目的に合ったものなのかどうかということと、あとは交流サロンの利用者の数もそうですが、課題にも挙がっていますけれども、このサロンを担っていく人材の育成のほうも今後の予定というか、計画についてお聞かせ願いたいと思います。
- 保福課長 資料の1ページの「歌って健幸運動教室」は年1回となっています。確かに年1回の開催では定着していかないということで、併せて実谷七本地区で寄茶場事業を、定期的に実施しているところです。こちらは、R1年度におきましても3回ほど実施しています。徐々に人も集まってきていて、モデル事業として進めていますので、担い手をどのように育てていくのかを三育学院大学と検討しながら、今後新町の朝市通りにある空き店舗を拠点として借りておりますので、寄茶場事業で得たノウハウ等をそこで活かしながら、担い手を育てたいと考えます。また地域おこし協力隊が保健福祉課に2名おり、活動していますので、新しい協力者とともに一緒に、継続的な事業展開をしていければと考えています。
- 委員長 それでは、次に資料の平成30年度実施事業についてご意見等ありますか。
- 町長 30年度の事業評価ということですが、資料に基づいて説明があり、いろいろご意見をいただいておりますが、冒頭委員からお話のありましたCCRCの指針というのが、高齢者の方々が都市部から来て、生き生きと生活している、あるいはここに住

んでいる高齢者の方々や若者を含めて、そういう総合的な計画であるという説明があったと思いますが、課長から説明があったように、本丸があって、今本丸の周りのベース作りをしているんだということで、これはこれで非常に大事でして、今後も教育の面、資源の活用・振興、そしていろいろな高齢者の交流の場づくりはやっていかなければなりません、この地域再生計画というのは、一応3カ年なんですね。今は真ん中から過ぎていくわけですが、本丸について、手掛けていけない時期にきているのかなと思います。そういう意味では、地域再生計画の中に事業評価と同じく、5項目、生活支援・支え合いと多世代交流の仕組みづくりと、地域資源を活かした賑わいの創出、人材の育成と移住促進、地域包括ケアシステムの構築と、さらには移住定住や雇用等に関するニーズ調査と情報発信というようなことが挙げられているのですが、具体的には福祉・医療・介護といった政策を、どういうふうに地域包括ケアシステムを充実させていくかという仕組みづくりに、実際入っていかねばならないとあって、今後対外的にもアプローチしていきますが、今日の30年度事業の評価、反省を踏まえながら、そういう方向に進んでいかなければいけないとあって、そういう面でいろいろなご意見をいただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

委員

KPIの初年度は、司令塔の副町長がいてこの執行率。難しい面があるのは、私もいくつかの事業に関わらせてもらってわかっているが、役所と事業を進めるのが本当にやりにくい。まして国の交付金だと、もっと規制がかかって、中々事業内容も変更できなくて、どんづまって、すごくやりにくいので、どうにか緩和してもらえないかと思ひます。今2年目ですが、2年目の執行率は100%には届かないと思うんですけど、3年目もそうなってくると、全体的な執行率は今から想像すると見えてる話で、それはそれとして、国の補助事業が3年終わったとしても、御宿のまちづくりは続くわけなので、まずは組織として事業は事業として、進めなくては行けないんですけど、その点で、今見てわかるように、各課が縦割りになっている。そこをシンクタンクとか司令塔を作って進めないと、結果は見えてるのかなあという感じ。商工会としても、ちょうど景気のいい時代は終わって、商店の高齢化が進んで、どんどん廃業が今後続くと思ひれます。これは御宿に限らずどこでもそうなんです、商工会でもいろいろ情報を得たり、議会でも昨年度DMOの研修があったが、行政、商工会、観光協会、漁組、JAをはじめ、一つにまとめ上げる司令塔を置かないと、事業は進まないのかな。今までは観光地づくりだったけれども、これからは観光地域づくりをしなきゃいけないということは、地域住民が主導して、観光客と一緒に楽しむ。資料の中で言わせてもらおうと、移住定住のアンケートはアンケートでいいんですが、富裕層の方とか別荘をもっている方とか、外国人の方で相当レベルの高い方が御宿にゴロゴロいます。その人達を一回呼んで会議すると面白い。人生成功している方々はすごく参考になるんで、もしそういうことを受け入れてくれるんだしたら、まちづくりは、我々は無給で休みとかの感覚が無いんで、音頭をとって土日になりますが、イギリスの方、オーストラリアの方、日本人、女性の方を含めて相当いい人はいますんで、何かのときに呼んでいただけたら面白いかなと思います。あとは基本に向かっていくしかないんですけど、CCRC、日本版何々というのは、そもそも論として、日本全国でも成功例はないんです。もうアメリカとかとはレベルが違うので、事業というのは90%が失敗の連続で、その中から成功していけばいいんで、小さく立ち上げて、大きく育てるという意味では、ちょうどいい交付金の金額なのかな。あまりでかくな

っても難しいですし、少なくとも難しい、そんな中でやっていかななくてはならないんで、この①から⑥のCCRC含めて全部関連性を持たせて、ひとつの地域づくりを育て上げていけるようにしていただけたらと思います。あと商工会からは、新たに来年度になってしまうかもしれませんが、工学院大学の学生と話しをして、提案をしていきたいと思ってますのでよろしくお願いします。

企財課長

先ほどのご説明も各課でやってますので、縦割りでというような話もありましたが、弊害をなくそうということで、このCCRC事業につきましては、横断的にプロジェクトチームを組んで、必要に応じて各課、担当課長、担当者と情報共有などは図っております。担い手については、中々出てこない、育て上げるのが難しいというようなお話がありましたが、確かにそのとおりで、その点こちらでも苦慮しております。この交付金事業も、ずっとこれから財源が保証されるわけではなく、期限が決まっているので、期限の中でできれば担い手ですね、国のほうでは地域再生推進法人といいまして、そういう法人を町に立ち上げて、いろんな施策を回していくような仕組みを作れということになってはいますが、なかなか今外堀を埋めるような事業をやっているんで、採算が取れるかという、今の段階では中々難しい。ということは業として手を挙げる人は今のところ皆無だということなのです。なるべく儲かる仕組みを作る中で、そういう人も出てくるのかなと思っていますので、最初のひところがし、ふたころがしを、町のほうが背中を押してというようなイメージでやっております。国のほうもそういうスキームで、結局漁業や農業がありますけど、我々役場の職員が魚を獲ったり、稲を植えたりするわけではないので、人材を育てていくというのは、大変重要であると考えております。また、観光の分野ではDMOなども大いに研究の対象になるかと思っています。いろいろな先駆者などのお話も聞けるというような話がありましたが、推進協議会の中で協議しながら、必要に応じて、もしお願いすることがあったら、別にご協力をお願いしたいと考えます。

副委員長

資料6の中の写真に、認定こども園に隣接する町有地と記載がありますよね。ここは何か福祉関係の施設か何かに予定があるのですか。

町長

特に予定ということではないんですけど、例えば福祉関係の事業所とか誘致する場合に、当然町内にいくつかの候補地が挙がってくると思いますが、そのなかの一つには入ってくるのではないかなと思います。

副委員長

町の持っている土地だから、ここが使える土地だということですね。民間の土地よりも割と実現しやすいんですか。

町長

まあそうですね。相手方の意向もあると思いますので、受け入れ側としては、何箇所かの候補地を挙げて説明したり、進めたりしなくちゃいけないんじゃないかなと思いますけど。

副委員長

CCRCで当初の頃よく言われていましたよね。サ高住のこと。あれに特化しているわけではないのですよね。

町長

まあいろんなお考えを皆さんお持ちだと思うんですけど、私の考えでは、一つにはこれから福祉行政を進めていく中で、財政的な問題は当然頭に入れなくちゃいけないんじゃないかなと思うんですね。例えば特別養護老人ホームをもう一軒とか1事業所を誘致してくるというような場合は、どのくらい町の財政負担がかかるのか。あるいは、医療的な診療所、サ高住とかいろいろありますけど、そういう意味ではご承知のように、サ高住の場合は、どのくらいの規模に、人数があるかっていうのはありますけど、例えば都市部のほうから移住してきていただいて、そこに住んでいただくと

というようなことであれば、介護保険等の負担が地元の町としてはほとんどありませんので。そして施設は企業者に作っていただくということになろうかと思えます。そういう意味で、福祉医療施設を充実していくために、一つは財政上の問題を念頭に置きながら、進めないといけないのではないかと考えています。

企財課長

写真なんですけど、ここに何かするというのではなくて、町としてはこういう土地もありますよというのをいくつか業者にお示しして、業者のほうも山を切り開いてこれから建てなくては大変なので、造成の必要がないような土地もあるので、場合によっては何らかの方法でご提供ができる可能性もあるということで、こちらに写真を載せていただいて、業者にも説明をさせていただいています。ただ、土地について無償で業者に提供するんですとか、固定資産税を免除するとか、そんなことはまだ議会などにもお話していませんので、そういう段階ではないです。ただ町としては、こういう土地を所有しているので、業者を募って、業者としては御宿町に事業を展開するに当たっては、町に対してどんな要望事項がありますかというのを聞いたところです。それを分析しまして、御宿町は近隣に比べて固定資産の水準が高いんです。そういうものが進出のネックになってようであれば、対策を講じなければいけませんし、今のところ内部で検討している状況でございます。

委員長

ほかに何かございませんか。ご意見が無いようでしたら、次第6 その他ですが、事務局何かありますか。

企財事務局

今回の検証結果の公表については町ホームページや広報誌で公表いたします。また、この評価委員会ではなくて、生涯活躍のまち推進協議会につきましては、議題として、今年度の内容についてと、来年度の地方創生推進交付金にかかる事業計画について、12月下旬か1月頃開催させていただければと考えております。

企財課長

ただいまお話ししましたとおり、令和元年度の事業と令和2年度の事業につきましては、これから予算編成時期ですので、来月の下旬か1月中には会議を開催するよう、予定をお示しして、ご意見をいただきたいと思えます。

委員長

それでは、会議を閉じたいと思えます。この地方創生あるいはCCRCは非常に期待は大きい反面、非常に難しい課題でございます。ただ、地方創生、CCRCについては、まちづくりの貴重な計画ですが、これから取り組んでいかないといけないと思えます。今日は皆様方から貴重な意見を頂戴いたしました。これを是非、事務局でも参考にして進めていただきたいと思えます。円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。